

# 技術・家庭科（技術分野）学習指導案

日 時 平成22年5月21日（金）第3校時  
対 象 2年2組（男子20名 女子20名 計40名）  
指導者 教 諭 濱 田 和 美

## 1 内容及び題材名

B 家族と家庭生活 「子どもの成長」

## 2 題材設定の理由

今日の科学技術の進歩による物質的な豊かさと便利さ、さらに、家族形態の多様化や少子化の進行とともに家庭生活も変化してきている。そんな中、子どもたちは異年齢集団と関わる機会も減り、人間関係の希薄さが目立つようになり自分本位な行動や言動が多くなる傾向になってきている。こうした現状の中で多感な時期にある中学生が、幼児を理解し、思いやりや温かな心を育み、ひいては、人間の一生の中で中学生としての位置づけを考えながら、人間の成長、発達とそれにかかわる家庭や社会を認識することは、意義深いことである。

「子どもの成長」では幼児とのふれあい体験やおもちゃの製作などの実践的・体験的な学習を多く取り入れることで幼児に関心をもたせ、子どもが育つ環境としての家庭や家族の人間関係について考え、家庭や家族の基本的な機能や重要性を理解させることを目標としている。

小学校において生徒は、家庭における家族の生活を理解し、協力して家庭生活をよりよくしていくことについて学習してきている。しかし、幼児のことやその保育環境について学習するのは初めてである。しかも、少子化や核家族化が進んでいる中で、幼児に対して「かわいい」という感情は抱きつつも、自分や自分の生活からはかけ離れたものとしてとらえている。さらに人間が育っていく一過程を、家族や家庭生活と結びつけて考えることも少ない傾向にある。

指導に当たっては、これらの実態をふまえ、技術分野と家庭分野の学習内容のつながりを意識した教材や指導計画の工夫を行いながら、幼児への理解を深めさせたい。さらに、知識と技術とのつながりを深める工夫としてシェアリングカードを活用したり、自由記述の自己評価によって自己を振り返らせたりし、自分の成長について考えさせ、自己認識が深まる機会として指導していきたい。このような指導をくり返し行うことで、知識や技術がつながり日常生活で実践しようとする態度や意欲の育成がはかれると考えた。以上のようなことから、本題材を設定した。

### 3 題材の指導目標

- (1) 幼児に関心を持ち、幼児の遊びや幼児の発達と家族とのかかわりについて考えさせる。
- (2) 幼児の遊びや幼児の発達と家族とのかかわりについて課題を見つけ、その解決を目指して工夫させる。
- (3) 幼児の遊びや幼児の発達と家族とのかかわりについて観察したり調査したりすることができるようにさせる。
- (4) 幼児の遊びや幼児の発達と家族とのかかわりに関する基礎的な知識を身に付けさせる。

### 4 指導計画（子どもの成長、幼児との交流 全19時間）

学習内容	時数	主な指導内容
子どもの成長		
(1) 幼児の生活と遊び		
① 遊びの中で育つ	2	・遊びが幼児の体や心の発達にとって大きな意味があることを理解させる。 「技術との関連」
② 遊びを支える	1	・遊びとおもちゃのかかわりや遊びを支える環境について理解させる。
③ 遊びと発達について考えよう	1	・成長と共に遊びが発展することを理解させる。
(2) 幼児の成長		
① 体の発達について考えよう	2 本時 1/2	・幼児の体の発育を理解し、発達の特徴をとらえさせる。
② 心の発達について考えよう	1	・幼児の心の発達を理解し自分を見つめさせる。
③ 生活習慣を身につける	1	・幼児期に形成される生活習慣を理解させ、適切な接し方を理解させる。
(3) 子どもと家族や周囲の人々		
① 子どもと家族とのかかわりを考えよう	1	・幼児の発達に家族とのかかわりが重要であることを気付かせる。
② 子どもの成長を支え合う	2	・新聞やニュースなどを活用し、幼児の成長を様々な視点から支える態度を育成する。
幼児との交流		
(1) 幼児の喜ぶおもちゃをつくろう	4	・幼稚園訪問で使うおもちゃについてのアイデアを出し合い、制作への意欲を高める。 「技術との関連」
(2) 幼稚園訪問の準備をしよう	1	・これまで、学習したことから、体験に生かすことを確認し、訪問への準備をさせる。
(3) 幼稚園を訪問しよう	2	・幼児とのふれあいやかかわり方を工夫し、対象年齢の特徴を捉えて安全に関わるようにさせる。
(4) 交流したことをふり返ろう		
① 交流レポートの作成	1	・レポートの作成から体験をふり返り、よりよいかかわり方を考えさせる。
② お礼カードの作成	1	・幼稚園へのお礼カードの作成を通して、人とかかわり方を考えさせる。

## 5 生徒の実態

(対象 2年2組 男子20名 女子20名 実施日平成22年4月26日)

(1) 幼児が好きですか。

はい 25名	いいえ 15名
--------	---------

(2) 幼児の学習に興味がありますか。

はい 27名	いいえ 13名
--------	---------

(3) 幼児と接する機会がありますか。

はい 20名	いいえ 20名
--------	---------

(4) 生まれたばかりの子供と接したことがありますか。

はい 20名	いいえ 20名
--------	---------

(5) 幼児の年代別(誕生時, 1才, 3才, 5才)の平均身長, 平均体重を答えなさい。

0～1問正解 5名 2～4問正解 33名 5問正解 1名 全問正解 1名

(6) 幼児と接するときどのようなことを考えますか。(複数回答可)

- ・優しく接する。(17名)
- ・危険のないようにする。(5名)
- ・ほめる(3名)
- ・どうすれば不機嫌にならないのか(2名)
- ・幼児の目線になる(7名)
- ・笑顔で接する(3名)
- ・手加減をする(2名)
- ・わからない(5名)

### 《考察》

本学級の生徒の半数以上が幼児が好きだと答えている。その理由としては「かわいいから」や「小さいから」などが多くあげられている。好きではないと答えた生徒の理由としては「泣いたときにどう対応すればよいか分からない」「接し方がわからない」と答えている。さらに、幼児の学習に興味があるかという質問にも多くの生徒が「はい」と答えている。その中には、「幼児のことが好きではない」と答えた生徒も入っており、その理由として「幼児との話し方などが分かって幼児が好きになれそうだから」と答えている。

幼児と接したことがあるかという質問には半数の生徒があると答えている。対象は自分の兄弟やいとこ、保護者の知り合いの子どもなど様々である。本時の学習内容の幼児の発達の特徴では、「年代別の身長や体重を答えなさい」という問いの正答率は、15%と低い。

これらのことから、生徒にとって幼児は魅力的で、かけがえのないものだと感じ取ることができる。しかし、接する機会があまりなかったり、接したとしても時間が短かったりして幼児のことを理解するまでにいたっていない。このような実態をふまえて、幼児に関する学習を進めるにあたって、VTRの視聴をしたり、実際に幼児の体の発達に合わせた用具を使うことで幼児についての知識・理解を深めさせたいと考えた。

本時の学習を通して、生徒の幼児に対する興味・関心を高めながら、生徒自身の幼児期をふり返りながら、家族や地域の必要性にも気付かせたい。

## 6 本時の実際

(1) 主題 幼児の体の発達

(2) 指導目標

ア 幼児の体の発達と周囲のかかわり方に関心をもたせる。(関心・意欲)

イ 幼児の体の発達の過程を、一人の人間の成長としてとらえさせる。(工夫)

ウ 幼児の体の発達について知り、まとめ発表ができるようにさせる。(技能)

エ 幼児の体の発達の特徴について理解させる。(知識)

(3) 目標行動

幼児の体の発達の特徴が説明でき、中学生としてのよりよいかかわり方を表現できる。

(4) 評価場面と評価基準

評価場面と評価基準	十分達成している	おおむね達成している	指導の手立て
体験から感じた特徴をカードに記入する場面 (技能) 幼児の体の発達について理解し、まとめることができる。	幼児の体の発達の特徴について分かりやすくまとめ、発表することができる。	幼児の体の発達の特徴についてまとめ、発表することができる。	幼児の発達の特徴をとらえやすい体験活動を通して、特徴に気付かせ、さらにシェアリングカードに記入し、ボードに貼ることで共有化ができるようにした

(5) 授業設計の視点

ア 技術分野、家庭分野の学習内容のつながりを意識した教材の工夫

技術分野、家庭分野のつながりを意識した指導計画を作成した。家庭分野で幼児の特徴について学習したことを生かして、技術分野で幼児のおもちゃの製作に取り組む。その後、幼稚園訪問の際におもちゃを持っていき、実際に使って遊ぶ。このように、家庭分野で学んだ知識を技術分野で活用し、技術分野で身に付けた技術を生かした作品を生活に生かすことができるように、指導計画を工夫して作成した。

イ 身に付けた知識や技能に気付かせるシェアリングカードの活用

生徒にこれまで学習した知識が、実践的・体験的な学習活動で活用されたことに気づくような工夫ができれば、日常生活で実践的な態度や意欲につながると考えた。生徒に気づかせる工夫として、シェアリングカードを用いてブレンストーンミングの技法を用いることにした。「子ども体験活動」を通して気づいた幼児の特徴をグループ内で共有するためにシェアリングカードに書かせる。それらを一枚のシートに貼りながら幼児の発達の特徴をまとめていく。付箋紙を重ねたり、グループ化したりする作業をしながら、体験で得た知識を確実にすることができると思った。

(6) 本時の実際

段階	学習過程	時間	学習活動	指導上の留意点・教具
導入	はじめ	10分	1 幼児の日常生活のVTRを視聴し、幼児の動きや体格を観察する。	1 幼児の日常生活のVTRを視聴させ、幼児の動きや体格など観察させる。 ・VTR ・プロジェクター ・ワークシート ・保育人形
	VTRの視聴   1			
入	学習課題の設定   2	15分	2 学習課題の設定を行う。 幼児の体の発達にはどのような特徴があるのだろうか。	2 幼児の発達の特徴を予想させ学習課題へとつなげる。
	できたか   3 補   4			
展	体験活動の説明を聞く   5	10分	5 子ども体の成長を体験する活動の説明を聞く。 ・身長コーナー ・体重コーナー ・足形・手形コーナー	6 体験活動がスムーズに行えるようこの期間指導を行う。 ・幼児の平均身長と同じ長さのひも ・幼児の平均体重の表と水の入ったペットボトル、かご
	子ども体験活動を行う   6 補   8			
開	できたか   7	8分	6 体験活動を行いながら、シェアリングカードに記入する。 7 シェアリングカードに記入したものをグループで一枚のシートにする。	8 わかったことをまとめることができない生徒には、体験活動を振り返りながらわかったことをまとめさせる。  <b>授業設計の視点イ</b> 知識と技術を結びつける技法の工夫として、シェアリングカードを使い学んだ知識を技術を結びつける
	幼児の発達の特徴をみつける   9			
終末	わかったか   10 補   11	7分	9 幼児の体の発達の特徴について気づいたことをグループでまとめる。 10 グループでまとめた意見を発表する。	10 幼児期の体の発達に著しいことや、個人差があることに気づかせる。 11 幼児の体の発達には順序があることもふれる。 12 幼児の体の発達や特徴について理解させ、安全性や体の発達に合わせた用具などの紹介をする。
	本時のまとめ   12			
終末	自己評価   13	7分	12 幼児の体の発達の特徴とかわり方を理解する。 13 本時の活動をふり振り返り、自己評価を行うとともに幼児の発達を考慮したおもちゃのアイデアスケッチを考える。 14 次時の予告を聞く。	13 自由記述の自己評価とおもちゃのアイデアスケッチを通して幼児への関心を高めさせる。 <b>授業設計の視点ア</b> 技術分野と家庭分野のつながりを意識した教材の工夫として幼児の発達を考慮したおもちゃのアイデアスケッチを考させる。
	次時の予告を聞く   14			
終末	おわり			